

## 松五 奥の細道 ノート 解答

問一 「おくのほそ道」のジャンルは何か。 俳諧紀行文

問二 一般的な旅と芭蕉の旅の違いは何か。

「一般的な旅はくだが、芭蕉の旅はくという違い」という形で書きなさい。

一般的な旅はあらかじめ訪ねたい名所や、店を調べて計画通りに回り、お土産を買って家に帰るものだが、芭蕉の旅は特に計画は決めない漂泊の旅で、人生そのものだという違い

問三 「旅に病んで夢は枯野をかけめぐる」は芭蕉の最期の句であるが、このような句のことを何というか。また、この句の季語と季節を答えなさい。

辞世の句・枯野・冬

### 「旅立ち」について

問四 この文章には対句が三カ所に使われている。それはどこか。

①月日は百代の過客にして ↓ 行きかふ年もまた旅人なり

②そぞろ神のものにつきて心をくるはせ ↓ 道祖神のまねきにあひて取るもの手につかず

③ももひきの破れをつづり ↓ 笠の緒付けかへて

問五 「草の戸も住み替わる代ぞ雛の家」の切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えよ。

ぞ・二句切れ・雛・春・体言止め

問六 「行く春や鳥啼き魚の目は泪」の切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えよ。

や・初句切れ・行く春・春・体言止め

問七 「春立てる霞の空に」と「松島の月まづ心にかかりて」の部分には掛詞（11一つの言葉に二つの意味を持たせる言葉）が使われている。それぞれどのような意味で使われているかを答えなさい。

「春立てる霞の空に」①春が立つ ②霞が立ちこめる

「松島の月まづ心にかかりて」①月がかかる（11月ができる） ②心にかかる（11気になる）

問八 この文章の中の芭蕉の人生観を示す部分を五字で抜き出しなさい。  
旅を栖とす ※旅は人生であるというのが芭蕉の人生観

## 「平泉」について

問九 「三代の栄耀」の三代とは具体的にどのような人たちのことか。三人の名前を答えなさい。 藤原清衡・基衡・秀衡

問十 「高館」はだれが住んでいたところか。 源義経

問十一 「衣川」や「衣が関」は和歌で詠まれる有名な地名のことだが、このような地名のことを何と言いますか。 歌枕

問十二 「国破れて草青みたり。」はある有名な漢詩の引用である。その漢詩の題名と作者、またその作者が別名でなんと呼ばれていたかも答えなさい。

春望・杜甫・詩聖

問十三 「夏草や兵どもが夢の跡」の句について、切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えなさい。 や・初句切れ・夏草・夏・体言止め

## 「立石寺」について

問十四 「清閑の地」とはどんなところか。 ひっそりともものしずかなところ

問十五 「立石寺」と同じものを表す語を文章中から五字で書き抜きなさい。 山上の堂

問十六 この文章中から対句を二つ書き抜きなさい。

① 松柏年旧り ⇨ 土石老いて

② 岸を巡り ⇨ 岩を這ひて

問十七 「佳景寂寞として心澄みゆくのみおぼゆ。」を口語訳しなさい。

例 美しい景色がひっそりと静まりかえって心が染みわたるように思われる。

問十八 「閑かさや岩にしみ入る蝉の声」について、切れ字・句切れ・季語・季節・表現技法を答えなさい。 や・初句切れ・蝉・夏・体言止め

問十九 「蛤のふたみに別れ行く秋ぞ」という伊勢の二見浦へと向かうため、大垣を出発する際によまれた句である。

切れ字・句切れ・季語・季節を答えなさい。 ぞ・句切れなし・行く秋・晩秋

「ふたみ」の部分は「二見浦」という地名のほかにもう一つの意味があるが、その意味を答えなさい。 (蛤の)ふたと身